

第48回 まなびや講座

日時 2025年3月16日(日) PM 1:30~4:30

会場 館林市文化会館 2階第3会議室 (館林市城町3-1) 資料代 1000円



テーマ 「短気な人たちの反体制と非暴力

～田中正造と荒畑寒村、父堀切利高、そして阿波根昌鴻～

講師 堀切リエさん

田中正造からたのまれて『谷中滅亡史』を書いた荒畑寒村を、父堀切利高は研究していました。父はこの本の復刊の折に文献や資料にあたり、足尾銅山も訪ねています(『谷中滅亡史』荒畑寒村著 岩波文庫)。寒村先生は奥様を亡くした頃から我が家によく泊まりにきていました。私が中学生から大学生の頃です。けれど残念なことに寒村先生から田中正造の話聞いたことはありません。父は堺利彦、大杉栄、伊東野枝の研究もしていました。伊東野枝は谷中村を訪ねて「転機」を書いています。この作品が載っている『伊東野枝全集』を父は編集しました。父はこまめに文献にあたり現地も歩く研究者で、後進の方から森まゆみさんなどからも感謝されていました。最後の本は『野枝さんを探して』(学芸書林)です。

私は子どもの本の企画・編集や作家として仕事をしています。その中で、子どもたちに田中正造の伝記を書く機会が与えられました。すでに父は亡くなっていましたが、書庫には資料が残っていました。布川了さんとのやりとりの手紙が見つかったので連絡を入れましたが、布川先生もすでに亡くなっていて、記念館を訪ねると、事務局長さんが親切に案内をしてくださったのです。

この度、学び舎へお招きいただいたのを機会に、荒畑寒村や父の本を並べて見ていると、「反体制」「非暴力」という二つの言葉が浮かび上がりました。私は、戦後、沖縄の伊江島で米軍との土地闘争を非暴力で闘った阿波根昌鴻のことを子どもたちに伝える本を書こうと20年あまり思い続け、やっと復帰50年の年に伝記を出すことができました。沖縄は今たいへんな状況になっています。私が沖縄に導かれたのも、考えてみれば寒村先生や父からのつながりだと思えてなりません。記憶を呼び起こし、今へつなげていくべき考えや行動をこの機会にもう一度、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



【講師プロフィール】 1959年、千葉県市川市生まれ。日本ペンクラブ「子どもの本」副委員長、子どもの未来社編集長。著書：『伝記を読もう 田中正造』『同 阿波根昌鴻』(あかね書房)、絵本：『あっぱれ! どごうちゃん』(ポプラ社)『ようかいびより』(あかね書房)、『絵で見る日本の図書館の歴史』、『日本の伝説 きつねの童子 安倍晴明伝』『同 きんたろう』(児童福祉文化財、子どもの未来社)、共訳：『ルドルフ 赤い鼻のトナカイ』(こどもの未来社)、脚本：『イエンナル・イエンナレ 韓国むかしむかし』(アート企画陽だまり)、『花咲かそ! 天神沼』(劇団風の子)など。

主催 足尾鉍毒事件田中正造記念館 館林市大手町6-50 電話0276(75)8000